

令和6年度 よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業
「特色ある道徳教育支援事業」
研究指定校の取組



【特色ある道徳教育支援事業】

「特色ある道徳教育支援事業」は、研究校を指定（2年間）して道徳教育の内容の重点化を図った研究を全教育活動において進めるものです。その中において、道徳教育推進教師を中心とした校内体制の充実や、道徳科における「考え、議論する道徳」の実践に向けた指導方法の工夫改善、児童生徒の感性に訴える魅力的な道徳教育用教材の開発と活用など、創意工夫を生かした特色ある道徳教育を推進するための実践研究を行っています。

令和6年度は、次の2校で実践を行いました。

・高根沢町立中央小学校（2年目）

・大田原市立薄葉小学校（1年目）

このリーフレットでは、本事業に協力いただいた各学校での取組や成果・課題等について紹介しています。

道徳は、平成30年度に小学校、令和元年度には中学校で特別の教科となりました。各学校における道徳教育や道徳科の授業のより一層の充実に向け、実践校での事例を参考にさせていただければと思います。

* 本リーフレットでは、「特別の教科 道徳」を「道徳科」と表記します。

令和7（2025）年3月
栃木県教育委員会

◇学校教育目標

【基本目標】豊かな人間性と、自ら学ぶ意欲をもつ、心身ともに健康な子どもを育成する。

【具体目標】○よく学ぶ子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

◇学校の道徳教育の重点目標

- ・ 誠実で明るい心で節度をもって生活し、よりよいめあてに向かって、最後まで努力する態度を育てる。
- ・ 相手の立場に立って考え、互いに助け合い、感謝する心を育てる。
- ・ 生命あるものを尊重し、かけがえのないものとして大切にする態度を育てる。

<研究の実際>

◇研究を始める前の道徳教育及び道徳科授業の現状と課題等

- ・ 道徳教育の充実を図るためには学校の教育活動の他にも家庭や地域との連携が重要であるが、具体的・継続的な取組には至っていない。
- ・ 「考え、議論する道徳」の授業実践を要として、児童が主体的に他者と関わりながら、自分の意見を伝えたり、相手の意見を聞いたりすることで、考えを多角的・多面的に広げたり、深めたりすることができる教育活動を推進していく。

◇研究課題

- I 学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化
 - (1) 道徳教育全体計画、別葉の整備・活用、他教科・行事等の関連
 - (2) 「他者との関わり」に視点をあてた道徳教育
- II 道徳科指導の創意工夫
 - (1) 「考え、議論する道徳」の授業実践
 - (2) 外部講師による指導・研修の充実、OJT導入
- III 地域・家庭との連携
 - (1) 町小中一貫教育「道徳教育部会」との連携
 - (2) 地域・家庭への啓発

◇組織体制

【関係諸機関】

- ・文部科学省
- ・栃木県教育委員会
- ・高根沢町教育委員会
- ・高根沢町小中一貫教育「道徳教育部会」
- ・外部講師等

校長

教頭

教務主任（研究主任）
学習指導主任
児童指導主任
道徳教育推進教師
学校教育課指導主事

授業研究部

調査研究部

実践啓発部

◇主な研究の経過

- 4月：研究主題、研究課題、重点目標等の確認、別葉の作成
PTA総会にて事業の説明、周知
- 5月：道徳研修会①（外部講師による提案授業）
- 6月：道徳公開授業 保護者や地域の方々に授業を公開
協力校への授業依頼
- 7月：道徳研修会②（指導案検討1）
学校運営協議会委員による道徳科の授業参観
- 9月：道徳研修会③（指導案検討2）
協力校への授業依頼
- 11月：道徳教育研究発表会
『いのちのおにぎり』（6年）
『わたしのしたこと』（3年）
- 12月：アンケート実施（保護者・児童）
- 1月：道徳研修会④（研究の振り返り）

◇公開授業づくりの流れ

6月

阿久津小3年生 上高根沢小6年生 東小6年生
指導書の展開例を活用した授業の実施

6月

各校の成果・課題を基に中央小で指導案を作成

7月

合同研修会・合同指導案検討会
教育事務所指導主事・町指導主事・町道徳教育部会・中央小

8月

7月の指導案検討会の内容をもとに
中央小で指導案を作成

9月

西小3年生 北小6年生
検討した展開を活用した授業の実施

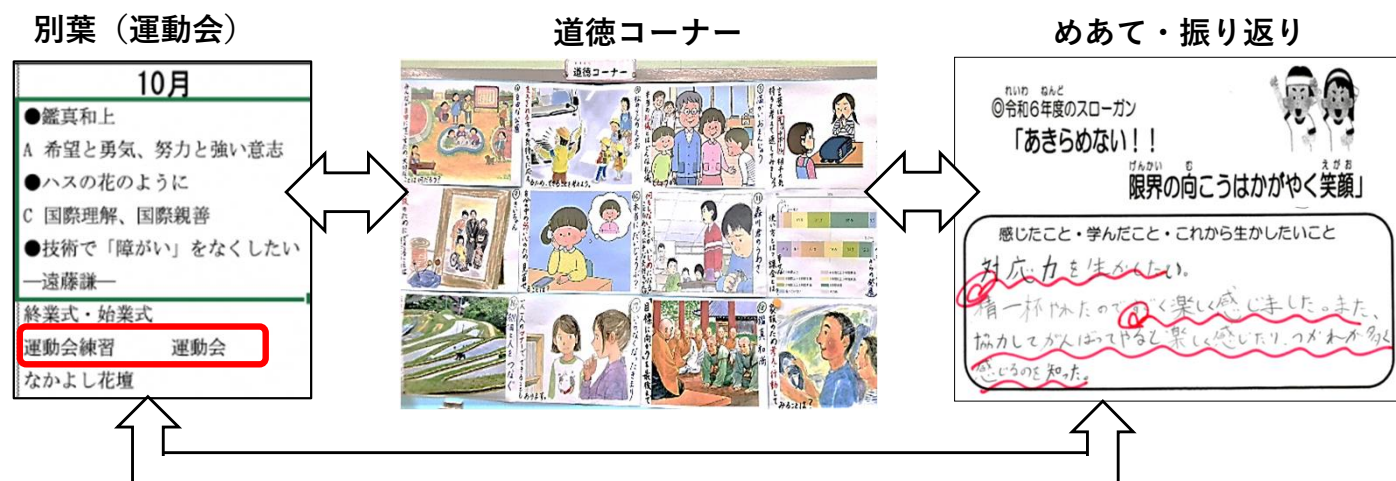
9月

各校の成果・課題をもとに中央小で指導案を再検討

研究課題Ⅰ 学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化

(1) 道徳教育全体計画、別葉の整備・活用、他教科・行事等の関連

- 研究を進めるにあたり、児童の実態や保護者の願い、地域の特色、町の道徳教育の目標等を踏まえ、学校の道徳教育の重点を「思いやり、親切」と設定した。
- 別葉を活用し、学校行事などのねらいと道徳教育の重点である「思いやり、親切」との関連を視覚的に捉えられるようにした。
- 教室に「道徳コーナー」を設け、授業内容を蓄積することで、実生活と道徳科の学びが相互に活かされ、各行事等の活動でめあてを立てたり振り返りを行ったりする際に、道徳的な視点を取り入れながら自己成長や協力の意識を深めることができるよう工夫した。



(2) 「他者との関わり」に視点をあてた道徳教育

- 自分の思いや考えを伝える基礎的・基本的な力を育成するとともに、学びを活かしながら他者と関わることで、伝えようとする力、関わろうとする力、共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育てる場を設定した。



なかよし班 (異学年との交流)



保育園・幼稚園との異校種交流



地域人材を活用した
ゲストティーチャー授業



中央小おたすけ隊 (地域ボランティア) による苗植への指導



廊下に掲示している「よいこの木」

よさを認める「よいことカード」、「ありがとうカード」の活動を実施した。白いカードは教師が児童のよさを伝えるカード、ピンクのカードは児童同士が感謝の気持ちを伝え合うカードとし、「よいこの木」として掲示することにより、相手を思う接し方や言葉掛けを意識した行動が見られるようになった。

(1) 「考え、議論する道徳」の授業実践

ア 発問の工夫

- 「考え、議論する道徳」の授業への質的転換を図るため、次の3つの発問づくりを意識した。

問題意識

をもたせる発問

- 主に導入部分で、教材にある道徳的な問題場面を取り上げて問い掛けた。
- これまでの自分の経験を振り返って、じっくりと考える必要がある発問づくりを心掛けた。

多面的・多角的

に考えさせる発問

- ねらいとする道徳的価値に結び付く中心発問では、様々な視点に気付けるような問いかけを心掛けた。
- 条件や状況を変えて考えたりそれぞれの立場に立って考えたりするような多角的な思考を促す発問を考えた。

自分の事

として考えさせる発問

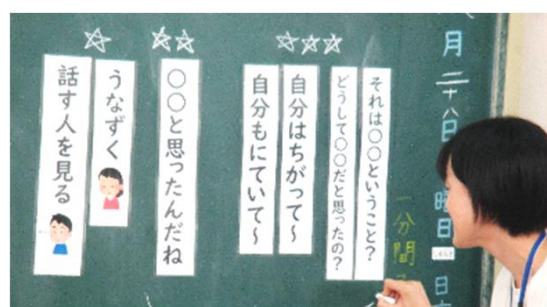
- ねらいとする道徳的価値に関連する体験を思い起こさせるような問いかけをした。
- 登場人物に自分を重ねて考えさせる共感的、投影的な発問や、自分との関わりで考えを深めるための発問づくりを心掛けた。

イ 主体的に他者と関わりあうことができる学習形態の工夫

- ペアやトリオでの活動など、授業や活動のねらいに応じた多様な学習形態を取り入れることで、自分の考えを表出する機会を確保した。また、対話を促すための話型を提示することで、相手の意見を尊重しながら互いの考えを広げたり、深めたりするための指導の工夫を図った。



ペアやトリオでの意見の交流



対話を促すための話型の提示

〈児童の声〉

- 友達と話すと、自分では思いつかないような考えを聞くことができた。
- 迷うこともあるけど、友達の意見を聞くと、「なるほど」と思える。
- いつもはあまり関わらない友達とも、道徳ではたくさん話して考えを聞くことができるのでいいと思う。

ウ ICT端末の活用

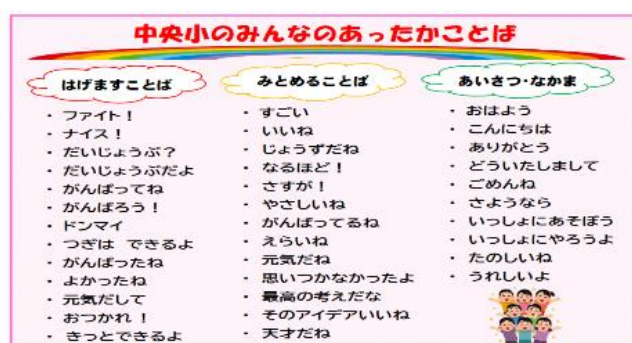
- 児童への事前アンケートをグラフ化して提示したり、意見を集約して共通点や相違点を明確にしたりするなど、ねらいをもってICT端末を学習活動に活用した。



オクリンクを活用した意見の集約

エ 教室環境の工夫

- 各教室によりよい他者との関わりを促すための「あったかことば」の一覧を掲示したり、「道徳コーナー」を設けたりした。



「あったかことば」の掲示

(2) 外部講師による指導・研修の充実、OJTの導入

ア 外部講師による道徳教育研修の充実

- ・ 白鷗大学の中山和彦先生を講師に招き、年4回の研修会を実施した。
- ・ 道徳教育研究発表会では、中央小学校の研究主題に基づいた講演を行っていただき、参加者は研究についての理解を深めるとともに、道徳教育の大切さを改めて認識する機会となった。



提案授業



道徳教育研究発表会での講演



研究授業



授業研究会

〈先生方の声〉

- ・ 中山先生の提案授業を通して、道徳科の授業には「答えは一つではない」ことや、人と違った「色々な見方や考え方」を認め合うことの大切さについて学ぶことができた。
- ・ 研修会では、道徳科の特質、多面的・多角的に考えるための方法、発問のポイント、そして特色徳教育に関わる取組について、教職員の問題意識に沿った内容を提示いただき、研究を意図的かつ計画的に進めることができた。

イ 校内一斉の「道徳の時間」の設定

- ・ 水曜日の4時間目を校内一斉の「道徳の時間」とし、授業の量的・質的確保を図った。
- ・ 全担任が毎週同じタイミングで道徳科の授業準備を行うサイクルが生まれ、授業構成や発問の精査、ワークシートやICTの活用について話し合う機会につながった。



ウ OJTの機会設定

- ・ 校内一斉の「道徳の時間」を設けたことで教員同士が、学年の枠にとらわれず、悩みや疑問を共有し、協力し合いながら授業づくりについて話し合う、OJTの機会を設けることにつながった。

<成果及び課題>

○成果

- ・ 道徳科の授業一時間一時間を丁寧に積み重ね、全体計画や別葉を意識しながら、日々の生活と道徳科の授業の関連を教師が意識して取り組むことで、児童の学ぶ意欲や実践意欲が高まるということを再確認できた。また、授業だけでなく、行事や日常生活など様々な場面での人との関わりが、「自分の事」としての理解を深めることに繋がるということが分かった。
- ・ 毎週水曜日の4時間目を全校一斉の「道徳の時間」と位置付けたことで、道徳科の授業の量的・質的確保が図れた。また、教職員同士によるOJTの機会も設けることができた。
- ・ PTA総会や学校運営協議会などで道徳科の授業について丁寧に説明したことにより、道徳教育に関する学校の取組に対して理解と協力を得ることができた。
- ・ 「道徳公開授業」を設けたり、学校のホームページやたよりを通じて保護者や地域住民への周知・啓発を図ったりしたことで、道徳教育の重要性や学校の教育活動に対する理解が深まった。

△課題

- ・ 教師が話し過ぎてしまい、児童が内容項目についてじっくり考えたり、友達と話し合う時間を十分に確保できないことがあるので、時間配分と児童が話し合いたくなる展開の工夫が課題である。
- ・ 道徳教育の充実には、地域や家庭との連携が不可欠である。そのために、家庭の状況や地域の実態に適した啓発・発信方法をさらに検討する必要がある。

<今後に向けて>

- ・ 中央小学校の取組やその成果、課題を踏まえ、町全体の道徳教育を一層充実させるために、他校との連携を図りながら、人との関わりを大切にし、よりよく生きようとする子どもたちを育てる環境づくりに努める。
- ・ 道徳教育の重点である「思いやり、親切」の心を育てるために、多様な他者との関わりを今後も大切にするとともに、学校の全ての教育活動で行う「道徳教育」とその要となる「道徳科の授業」の循環をより一層推進していく。



◇学校教育目標

学習する子ども 思いやりのある子ども たくましい子ども

◇学校の道德教育の重点目標

「豊かな心をもち、自ら考え、自他ともにによりよく生きようとする児童を育てる。」

- ・ 自他ともに尊重する思いやりの心を育てる。
- ・ 善悪を見極め、進んでよいことを実践する態度を育てる。
- ・ 目標に向かって最後までやり抜こうとする態度を育てる。

<研究の実際>

◇研究を始める前の道德教育及び
道德科の授業の現状と課題等

- ・ 児童は、友達と話し合うことは楽しく、考えが深まると感じているが、自分の言動に自信をもてず、意見交換に苦手意識がある。教師主導型授業から脱却し、児童が主体的に学び、対話的で深まりのある授業への転換が必要だと感じている教職員が多い。
- ・ 本校は、家庭や地域が大変協力的な環境にある。その強みを生かして、今後、家庭や地域とともに、児童が豊かな心を育み、自己のよりよい生き方について考えを深めるような教育活動を進めていきたいと考える。

◇研究の視点・研究課題等

【視点1】

学校のエデュケーション課題を踏まえた道德教育の内容の重点化

- ・ 伝え合う力、関わる力を育む
- ・ 共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、集団や社会の一員としての自覚と責任を育む

【視点2】

道德科の指導の創意工夫

- ・ 対話を軸にした授業展開の工夫
- ・ 児童の実態の把握や道德科における評価を生かした指導の改善

【視点3】

指導体制や異校種、家庭・地域社会等との連携体制の充実

- ・ 外部講師派遣による道德教育研修の充実
- ・ 家庭（保護者）や地域社会との連携による特色ある道德教育の在り方

◇組織体制

【関係諸機関】

- ・ 文部科学省
- ・ 栃木県教育委員会
- ・ 大田原市教育委員会
- ・ 野崎中学校小中一貫教育
ののさき学園「道德教育部会」
- ・ 外部講師等

校長

教頭

教務主任
学校課題主任（研究主任）
学校課題副主任
学習指導主任
児童指導主任
道德教育推進教師

授業研究部

調査研究部

実践啓発部

◇主な研究の経過

- 4月 授業に関する教職員アンケート実施
児童の実態把握・分析（質問紙調査）
- 5月 道德教育計画作成（ロードマップ）
- 6月 学校課題研修（学校課題の方向性について）
学校課題研修（外部講師による提案授業、授業研究会）
ののさき学園道德教育部会での授業づくり、授業研究会
- 7月 道德教育ファミリーデー実施
- 8月 学校課題研修（パッケージ型ユニット道德について）
- 9月 ののさき学園道德アンケート実施（保護者や地域の思い）
- 10月 学校課題研修（外部講師による発問に関する研修）
- 11月 学校課題研修（研究授業、外部講師による指導助言）
- 12月 市道德教育研修会（講話）
道德教育ファミリーデー実施
- 1月 児童アンケート（変容分析）、研究のまとめ
- 2月 次年度の計画作成

学校運営協議会

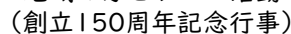
- 5月 道德教育研究説明
「地域に生きる人材育成のために」
- 9月 中学校授業参観
熟議「地域で育てる子供たちⅠ」
- 11月 小学校授業参観
熟議「地域で育てる子供たちⅡ」
- 2月 アンケート結果考察

【視点Ⅰ】学校の教育課題を踏まえた道徳教育の内容の重点化

A photograph showing a group of students sitting at a wooden table in a classroom, working on a project. They are looking at papers and materials on the table.

- ・ 仲の良い友達以外との交流ができるようになり、自分たちで工夫しながら助け合おうとする様子が見られるようになった。
- ・ 様々な学習場面での話合いが、考えの深まりにつながっている。

ののさき学園（１中学校２小学校で進める小中一貫教育）では、「ののさき学園道徳教育全体計画」のもと、「個性の伸長」、「希望と勇気、努力と強い意志」、「親切、思いやり」、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」を重点項目として道徳教育を実践した。児童が地域行事へ参加したり、学校行事に地域の方を招いたりする取組を進めている。

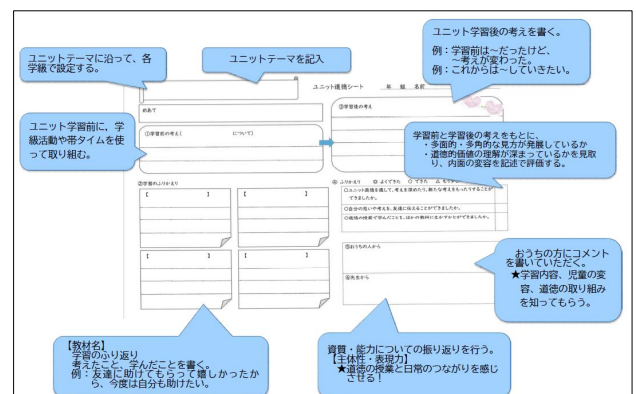
[illegible]

【活動計画と目標】		
前期（1・2・3・4年）【高学年】	中期（5・6・7年）【中学・高校生】	後期（8・9年）【高校・実業科】
・社会や文化をより深く、人に愛する心を育む。 ・文化にふれ、文化の大切さを理解する。 ・文化をいかに大切にするかを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。	・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。	・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。 ・文化の大切さを理解し、文化の大切さを伝える。

[illegible]

3人グループで話し合う「トリオ学習」を取り入れて授業を実践した。最初はうまくいかない場面も見られたが、次第に、児童同士が互いの本音を伝え合い、じっくり考える姿が見られるようになってきた。

個の学びを支え課題意識を継続させることを大切に考え、「パッケージ型ユニット道德」の実践を試みた。道德教育目標からテーマを設定し、関連する複数の内容項目を扱った教材で連続する複数回の授業を実施した。児童は、自己の考えの変容や深まりを実感しながら学習を進めることができた。

[illegible]

【視点3】指導体制や異校種、家庭・地域社会等との連携体制の充実

(1) 外部講師派遣による道徳教育研修の充実

- 年3回外部講師を招聘した校内研修の実施
講師 宇都宮大学 和井内良樹 教授
 - ・ 提案授業5年「泣いた赤おに」B友情、信頼「トリオ学習」の効果について
 - ・ ワークショップでの講話
対話をつなぐ発問、中心発問の研究
 - ・ 研究授業、授業研究会の指導助言
4年「いじりといじめ」C公正、公平、社会正義
- 市道徳教育研修会
講師 十文字学園女子大学 浅見哲也 教授
講話 「道徳科の授業改善と評価」

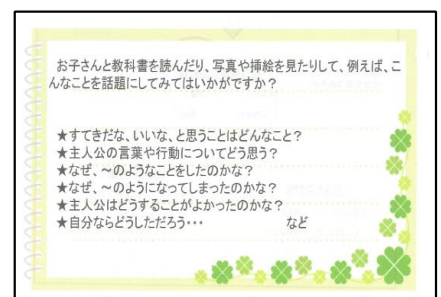
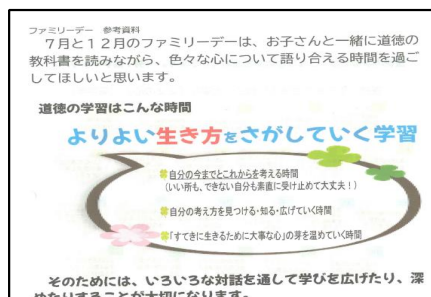


〈先生方の声〉

- ・ 問題意識が授業を動かすこと、思考の流れをつなぐ発問が重要であることを学びました。次の授業が楽しみになりました。
- ・ 導入や発問についての悩みは尽きないのですが、お話を聞いてスッキリしたことがたくさんありました。具体的な事例の紹介や演習により、すぐに実践してみたいヒントをいただきました。

(2) 家庭（保護者）や地域社会との連携による特色ある道徳教育の在り方

- 家庭と連携した道徳教育
ファミリーデー、授業参観での親子道徳の実施



〈保護者の声〉

- ・ 子供と一緒に時々読み返したいお話だと思いました。
- ・ いやなことをされている時や楽しい時、その人がどんな顔をしているか、どんな気持ちでいるのかを考えようと親子で話し合いました。

- 地域と連携した道徳教育

学校運営協議会の委員に、小・中学校での道徳科の授業を参観していただき、熟議「地域で育てる子供たち～子供たちの心を育てるために、地域ができること～」を実施した。



〈地域の方の声〉

- ・ 道徳は正解のないものであり、難しいと感じた。難しい内容だったが、子供たちが積極的に話し合い、考えていた。大人の私たちも地道に話合うことが大切だと感じた。
- ・ 今までは、先生が中心となって進めていく授業のイメージをもっていたが、今日の授業は、子供たちと先生が一緒に進めていく授業だった。私もこのような授業を受けてみたい。
- ・ 心が暗くなるような事件の報道も聞かれる世の中で、このような授業を積み重ねていくことで心が育っていくのだと思った。
- ・ 地域、郷土愛についての授業だったので、薄葉小に関わる「もみの木」、「野崎夏祭り」、「那須岳」などについても触れたら、郷土について身近に感じられたと思う。

<成果及び課題>

○成果

- ・ 児童の日頃の会話の中で、「道徳でやったよね。」という言葉が自然に交わされ、よりよい生活にしようと工夫し合う姿が見られるようになった。
- ・ トリオ学習により、普段発言が少ない児童も含めて全員が発言できる場となっている。また、他の児童の考えを聞いて、自分の考えを広げている様子が見られる。そのことが、様々な学習場面での話し合い活動に生かされている。
- ・ 校内研修や各種研修会への参加、小中一貫道徳教育部会、研究授業の実施など、研究を進めるにつれて、教職員の道徳教育に対する意識が高まり、道徳科の授業に対する意欲が向上している。
- ・ ファミリーデーの活用により、家庭で道徳教育のテーマをもとに話し合う機会とすることができた。保護者の感想には、多様な考えや保護者自身が自分を振り返る内容もあり、家庭において親子がじっくり考える時間となったことがうかがえた。
- ・ 学校運営協議会での熟議では、道徳教育を地域とともに進めることの意義や道徳科の授業について共有することができた。

△課題

- ・ ののさき学園アンケート調査（中学校区内の小・中学校の教職員及び保護者対象の道徳教育に関する調査）の回答について、研究の成果と合わせて分析・検討し、道徳教育計画の見直しや研究計画に反映させていく必要がある。
- ・ 教職員の意識調査（本校教職員を対象とした道徳科の授業に関する調査）の回答では、考えを深める発問の設定について「できる」が14.3%、「少しできる」が85.7%となっている。発問については、試行錯誤しながら研究を進めている。今後も研究を継続していく必要がある。
- ・ 授業を進める中で、トリオ学習での対話と自由な児童の発言やつぶやきなどをどのようにつなげていくか迷う場面がある。効果的なファシリテートの工夫を図る必要がある。

<今後に向けて>

- ・ ののさき学園の教職員、保護者アンケートや学校運営協議会の熟議での意見を基に、「ののさき学園道徳教育基本方針」を検討し、9年間の系統性を図った重点目標、指導計画の見直しを図っていく。
- ・ 対話を軸にした授業づくり、とくに、対話を促す発問の工夫を中心に研究を進めていく。また、「ユニット道徳」を効果的に実践していくために、テーマ、内容、方法を検討し、計画的に位置付ける。
- ・ 様々な人々との出会いの場、多くの経験の機会を活用しながら、児童が豊かな人生を実現できるように、保護者や地域とともに、よりよく生きるための基盤となる道徳性を育む道徳教育を推進していく。